

3 - 3 房総沖の海底地形と地質構造について

On Submarine Topography and Geological Structures off the Bōsō Peninsula.

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency.

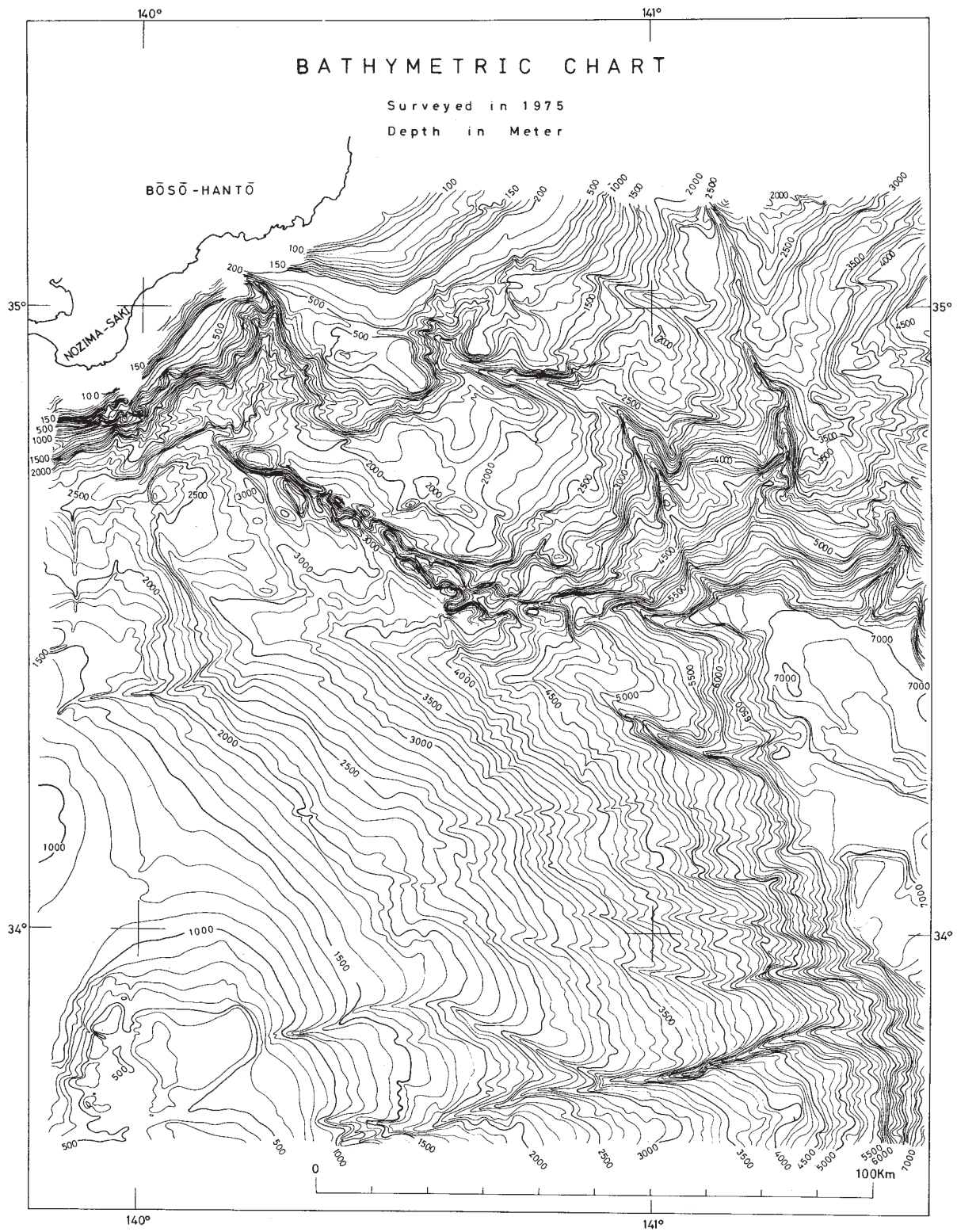
水路部は1975年6～7月、地震予知研究計画の一環として房総半島沖の相模トラフを中心とする海域の海底調査を行なった。調査は水路部の測量船“昭洋”があたり調査測線は南北方向約2海里間隔である。海底地形・地質構造についての主な特徴はつぎのとおりである。

(海底地形)

1. 野島崎沖から日本海溝に向ってほぼ南南東に走る相模トラフを境として陸側では複雑な地形を示し、これと対照的に南側では比較的単調な地形を示す。
2. 相模トラフにはほぼ並走して勝浦沖を谷頭とする海底谷群がみられる。
3. 相模トラフのうち勝浦沖では断層起源の高まりと盆地が交互に配列し、全体として雁行する。
4. 相模トラフの南側海域である御蔵島東方斜面には東西方向にのびる数条の海底谷がある。

(地質構造)

1. 相模トラフ海域の地質構造はトラフにほぼ平行する西北西－東南東の断層群と、野島崎沖の北東－南西（東北東－西南西）の断層によって支配されている。
2. とくに房総半島南端の南東縁の著しい海底崖を形成する断層、およびトラフ中央に雁行する断層群を伴う西北西－東南東断層は顕著である。
3. 相模トラフの南側海域の構造は地形と同様比較的単調であり、海底谷を規制する東西および南北方向の断層が認められる。



第1図 海底地形図
Fig. 1 Bathymetric chart.

